

令和4年10月21日  
地方独立行政法人大阪市博物館機構  
大阪歴史博物館  
担当：研究主幹 豆谷浩之  
(展示担当：学芸第3係 中野朋子)  
電話：06-6946-5728  
ファックス：06-6946-2662

## 大阪歴史博物館 特別企画展

### 「— 橋本コレクション受贈記念 — 文明開化のやきもの 印版手」 を開催します

大阪歴史博物館では、令和5年(2023)1月21日(土)から3月21日(火・祝)まで、6階特別展示室において、特別企画展「—橋本コレクション受贈記念— 文明開化のやきもの 印版手」を開催します。

本展では、明治時代から昭和初期にかけて全国各地で大量生産された日常使いの器「印版手(※)」の一大コレクションを陳列します。描かれたさまざまな図柄を楽しんでいただける企画です。

型紙や銅版転写などの技法で当時の風俗や流行を取り入れた図柄を陶磁器に転写する印版手のやきものは、その美しい青色、そしてデザインの多様性などから各地に多くの愛好家が存在します。当館では、平成29年(2017)度に、印版手コレクターとして知られる橋本忠之氏が体系的、網羅的に収集した印版手作品1,129点の寄贈を受けました。本展はそのお披露目の展示となり、ほとんどの作品が初公開です。

あわせて令和3年(2021)度に大阪で陶業商が集中していた「瀬戸物町」(現・大阪市西区)の老舗陶器商・つぼ善商店から寄贈を受けた、大阪で明治末期から昭和戦中期にかけて発行された陶磁器業界紙『陶業時報』を特別公開します。

明治時代、文明開化とともに隆盛期を迎えた印版手。本展が、それらを通して映し出す人々の生活と文化、思想のあり方について改めて考える契機となれば幸いです。

なお、新たな試みとして、印版手に馴染みのない世代に向けて印版手を暮らしに取り入れる提案展示をスタイリスト・東ゆうな氏の監修で行います。「印版手ってカワイイ♡」をテーマにしたスタイリングにもご注目ください。

#### ※ 「印ばん手」の表記について

通常「印判手」と表記されることの多い、印ばん手ですが、橋本氏のコレクションについては「印版手」と表記しています。これは、もともとの「印判」という語は「こんにやく印判・ゴム版絵付け」にのみ限定して使用されており、現在の印ばん手の主流である「型紙摺絵・銅版転写」を含んでいなかったこと、また印ばん手の歴史が近代以降の印刷の発展とともに進化してきたことを踏まえ、印ばん手の表記としては「印判手」ではなく「印版手」とすべきである、との橋本氏の研究に基づいています。そこで当館では橋本氏の収集および研究活動に敬意を表し「橋本忠之印版手コレクション」と呼ぶことといたしました。

## 記

1. 名 称 特別企画展「一橋本コレクション受贈記念— 文明開化のやきもの 印版手」
2. 主 催 大阪歴史博物館
3. 会 期 令和5年(2023)1月21日(土)から3月21日(火・祝)まで  
※火曜日休館。ただし、3月21日は開館します。
4. 開館時間 午前9時30分～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで
5. 会 場 大阪歴史博物館 6階 特別展示室  
〒540-0008 大阪府中央区大手前4-1-32  
電話 06-6946-5728 ファックス 06-6946-2662  
<http://www.mus-his.city.osaka.jp/>  
(最寄駅) Osaka Metro 谷町線・中央線「谷町四丁目」駅 ②号・⑨号出口  
大阪シティバス「馬場町」バス停前
6. 観 覧 料 常設展示観覧料でご覧になれます。  
大人 600円(540円)、高校生・大学生 400円(360円)  
※( )内は20名以上の団体割引料金  
※中学生以下・大阪府内在住の65歳以上(要証明証提示)の方、障がい者手帳等  
をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料
7. 展示資料数 約200点
8. 展示構成  
序 「印ばん手」とは何か  
(1) 異国趣味と海外事情  
(2) 文明開化  
(3) 歴史・説話物語と文芸  
(4) 天皇と大日本帝国/強兵・帝国陸海軍  
(5) 吉祥・福祿寿  
(6) もの尽くし  
(7) 動物・植物  
(8) プライベートものと変わり文様  
(9) 名所・風景と風俗  
(10) 「大阪絵付」の印版手  
(11) 東ゆうな『HELLO MY INBANTE♡』/『青の小部屋』  
特別公開 初公開! 幻の業界新聞『陶業時報』

## 9. おもな展示物

### (1) オランダ商館員図大皿 大阪歴史博物館蔵（橋本忠之氏寄贈）

明治時代中期～後期 銅版絵付



ふたりの西洋人と天地が逆転した「V」字、西洋人と帆船のような図、獅子頭のような形で煙を出している器物などを描いた図の3つの窓絵が配された大皿。窓絵内の「V」字はオランダ東インド会社を意味する「V.O.C」を意識したもので、登場する西洋人もオランダ東インド会社の事務員を想定したと考えられます。江戸時代後期の肥前磁器に類似した図様の作品があります。

### (2) 文明開化文字図皿 大阪歴史博物館蔵（橋本忠之氏寄贈）

明治時代前期～中期 摺絵



「文明開化」という言葉は福澤諭吉が『文明論之概略』（明治8年；1875）の中で、civilizationの訳語として使ったのが始まりといわれます。この訳語は明治政府が推進する殖産興業政策などとあいまって市民にひろく浸透し、生活の西洋化、郵便や電信の普及、鉄道の開業などに象徴されるムーブメントとなりました。本作品はまさに時代の潮流であった「文明開化」を寿ぐ作品で、熨斗の意匠と「文明」「開化（「間」は「開」の誤り）」の文字を組み合わせています。

(3) 弁慶と牛若丸図横長隅切角皿  
明治時代後期 銅版絵付

大阪歴史博物館蔵（橋本忠之氏寄贈）



『義経記』などによって創作された弁慶の生涯に取材した作品のひとつで、橋上での弁慶と牛若丸（のちの源義経）の出会いを描き出します。この出会いをきっかけに弁慶は牛若丸の忠臣として仕えることとなりました。本作品の原画は明らかではありませんが、武者絵を集めた絵本である『和漢英勇画伝』（梅亭金鷲著、一勇斎国芳図）などに取材された意匠と考えられます。

(4) 猫じゃらし図隅入角大皿  
明治時代中期 摺絵

大阪歴史博物館蔵（橋本忠之氏寄贈）



本作品では、猫じゃらしの下で丸くなって寝る猫の姿が描写されますが、このように猫の鼻先に蝶が飛ぶ意匠は、じつは長寿を願うめでたいものと考えられていました。猫じゃらし図の印版手は、猫への親しみとともに人気の図様となったらしく、黒猫と蝶のバージョンも存在します。

(5) 雪だるまに仔犬図小皿  
明治時代後期 銅版絵付

大阪歴史博物館蔵（橋本忠之氏寄贈）



印版手作品には仔犬やこどもが登場する意匠も多く存在します。本作品は、こども達が作ったと思われる大きな雪だるまを雪輪に配し、その周りで仔犬たちが喜び遊ぶ様子が描かれています。

(6) 『陶業時報』創刊号 明治39年(1906)

大阪歴史博物館蔵(御崎正之氏寄贈)



大阪の「瀬戸物町」(現・大阪市西区)で明治末期から昭和戦中期にかけて発行された陶磁器業界紙。大阪における銅版絵付の創始について言及した記事も掲載されるなど、同時期の陶磁器の消費地と生産地との関わりを中心に記録された、地域史・近代陶磁史上、注目すべき資料群です。発行元であった「瀬戸物町」の老舗陶器商・つぼ善商店から令和3年(2021)度に寄贈され、本展が初公開となります。

#### 【用語解説】

「印版手」の技法について

現在、明治から昭和戦前期までの日用陶磁器の表面に印刷的な手法によって図様を表出する技法を骨董の世界で「印判(版)手」と総称しています。型紙を使う絵付(摺絵)、銅版転写紙を使う絵付(銅版転写)のほか、吹絵、ゴム判、石版印刷などの技法に大別することができます。こうした技術革新によって工業的な大量生産が可能となり、肥前、瀬戸・美濃などを中心に全国で大規模な生産がおこなわれました。

「印版手」はプリントウェアとも呼ばれます。本来のプリントウェアは18世紀後半のイギリスで銅の原版を用いて印刷した薄紙を、素焼した器胎の表面に貼って図様を転写した軟質陶器のことを意味し、イギリスからオランダ、ベルギー、フランスへと製造技術が伝播し次第に生産が拡大したものです。同技法はオランダ船によって日本へももたらされ「阿蘭陀焼」と呼ばれました。のちの銅版を使用する絵付技法開発の端緒となったと考えられます。なお、この技法に対して「印判」という呼称を与えたのは、古美術研究家で評論家の料治熊太(1899~1982)であったともいわれ、「印判手」の通称はそれに端を発します。

#### 10. 関連行事

(1) 講演会「印判手食器の鑑賞入門—輸入から国産へ」

講師：岡 泰正氏(神戸市立小磯記念美術館 館長)

日時：令和5年(2023)2月11日(土・祝) 午後2時~3時30分

(受付は午後1時30分より開始)

会場：大阪歴史博物館 4階 講堂

定員：180名(要事前申し込み)

参加方法：インターネット予約サイトによる事前申込制(先着順)

※受付開始は1月11日(水)の予定です。

詳細は、後日当館ホームページにてお知らせします。

参加費：500円



(2) 担当学芸員によるスライドトーク

講 師：中野朋子（大阪歴史博物館 主任学芸員）

日 時：令和5年（2023）1月28日（土）、3月4日（土）

いずれも午後2時～（約30分）（受付は午後1時30分より開始）

会 場：大阪歴史博物館 4階 講堂

定 員：180名

参加方法：当日先着順

参 加 費：無料（常設展の観覧券もしくは半券提示が必要です）

(3) 東ゆうな<sup>ひがし</sup>『HELLO MY INBANTE♡』 / 『青の小部屋』

東ゆうな氏は2002年から雑誌、カタログ、広告を中心に活動するスタイリスト。ファッション、雑貨、インテリア等ジャンルにとらわれず“乙女心にひとさじの毒を盛った世界感”を得意としています。またヴィンテージ雑貨や蚤の市好きで知られ、自身の暮らしの中でもコツコツ集めた印版手を愛用中。今回、東氏のディレクションで印版手のチャーミングさに触れる展示と暮らしの中でテーブルやインテリアに取り入れる展示をおこないます。「カワイイ」を切り口としたその世界観に注目してください。

11. 取 材 取材をご希望の場合は、事前に下記担当までご連絡ください。

（連絡先）大阪歴史博物館 企画広報課 企画広報係

電話：06-6946-5728 ファックス：06-6946-2662